

よどじん

L(レズビアン)、G(ゲイ)、B(バイセクシャル)、T(トランスジェンダー)。日本では約5%といわれるLGBT(性的少数者)の存在。

自らの人生の中で様々な苦境を乗り越え、社会問題の解決に向けて淀川の地から走り続ける人がある。

今月のよどじんは、

「虹色ダイバーシティ」

代表

むら き ま き
村木 真紀さん



もうこの地では住めない

高校を卒業すると同時に、逃げるようにして故郷を出た。

小学生の頃からまわりの女子生徒との会話にうまくついていけず、いつも不安な気持ちを抱えていた。異性の話になると生じる違和感。18歳の時に初めて同性からの告白を受けて、素直な自分の心に気づいた。でもこんな気持ちを誰に打ち明ければいいのか。どうすればいいのか分からない。悩んだ末の答えが故郷を出て暮らすことだった。

5度の転職

関西の地に舞い降り、大学を卒業した後に大手メーカーに就職。しかし職場での同僚・上司の何気ない会話が心に刺さる。そしてその気持ちを打ち明けら



▲企業や自治体に向けた講演・研修など
全国を飛び回る毎日

れない苦しみが何度も襲う。苦悩と挫折の中、5度の転職を繰り返す。

転職が訪れたのは今から3年ほど前。会社の有給休暇を活用しながらLGBTの権利擁護活動に参加する暮らしを続けていたが、だんだんと活動が本格化し休暇が追いつかない状態に。しかし、ちょうどその頃米国ではオバマ大統領が2期目の就任演説でLGBTの権利について言及。

自分に風が吹きはじめています。そう感じていた。

歩みだした道

平成23年に友人と共に「虹色ダイバーシティ」を設立。大きな一歩をふみだした。はじめは手探りの状態でスタートさせた活動だったが、今では企業向けの講演会、コンサルティング業務など全国を飛び回るまでとなった。

そして今年の7月から、淀川区役所と事業提携したLGBT支援事業をスタート。コミュニティスペースや電話相談の開設など、全国的に例を見ない自治体との協働による活動を展開している。

淀川区との出会い

活動拠点を淀川の地としたきっかけは、ふとしたことから。それまで自宅や市内のシェアオフィスなどで活動してい

虹
の
見
え
る
ま
ち
へ

